

特定外来生物等分類群専門家グループ会合 哺乳類・鳥類 意見照会結果と対応案

受付日	委員名	事務局評価案への賛否	「反対」「その他」を選んだ場合、その具体的な内容及び理由	今回届出のあった未判定外来生物の他に、特定外来生物への指定を検討すべき種及びその理由	その他の事項に関するご意見
4/12	池田委員	その他	世界の外来種データベース（GISDやDIISE）にも掲載がなく、インドネシアの鳥々への導入もスラヤール島の完新世など時代が古く、現代で定着によって大きな問題が発生している形跡はない。生態的特性を加味しても日本で侵略的となる可能性は低く、基本的には事務局評価案に賛成する。 ただし、申請概要からは輸入の目的が判らないことが気になる。何を目的としてどのように利用するのかを確認し、輸入者が堅固な飼育管理体制がとれることを確認する必要があると考える。	—	—
4/12	石井委員	賛成	—	—	—
4/7	川上委員	賛成	—	—	—
4/7	成島委員	賛成	ブチクスクスは熱帯産の動物で、日本の冬を越すことが困難と思われる。また動きが鈍く、仮に脱柵しても捕獲は容易である。	—	分類群の「科」のレベルでの指定は「種」の特異性を無視することになり、慎重に検討すべきであると考ええる。
4/7	西海委員	賛成	—	—	—
4/7	羽山委員	賛成	—	—	—
4/12	村上委員		<p>1. 逸出の可能性 動物園などの施設で飼育する場合には逸出の可能性は低いと考えられるがペットとして個人が飼育する場合には、飼育条件などチェックの必要がある。</p> <p>2. 定着の可能性 資料を読む限りでは仮に逸出しても定着の可能性は低いと考えられる。野外への逸出時に届け出等の義務づけが必要と考えられる。 逸出後の捕獲も行動が緩慢であれば可能であり、日本では天敵も多く定着の可能性は低いと推測される。</p> <p>3. 定着後の分布拡大 定着の可能性は低い仮に定着しても遺伝的攪乱や生態系への被害などは少なく、分布拡大の可能性も低いと考えられる。</p> <p>4. 輸入後の個体について追跡は必要と考えられる。</p> <p>以上のことから本種を特定外来生物に指定する必要性は無いと判断される。しかし、輸入後については上記注意が必要と考えられる。</p>	—	—

ご意見を踏まえた環境省対応案
・ご意見を踏まえ、ブチクスクスについては、「特定外来生物への指定は不要」という評価案で、特定外来生物等専門家会合に諮らせていただきます。
・中段生態系影響を及ぼすおそれがないと判断される種に対して、外来生物対策の観点から何らかの義務を課すことは困難ですが、当該種に限らず、日本動物園水族館協会との連携体制を活用して適切な対応がなされるよう依頼して参ります。
・分類群単位の指定については、「外来生物の生態的特性及び被害に係る科学的知見を踏まえ、特に、予防的観点から有効かつ適切な場合には、種の単位だけでなく、属、科等の単位で選定するよう努めるものとする」（特定外来生物被害防止基本方針）としています。予防的観点から科等の単位での指定が有効な場合もあると考えられますが、ご意見を踏まえ、引き続き慎重に検討して参ります。